



市民活動の新たな挑戦

いろいろな悩みや不安、難題を抱える人たちを支え、問題解決に積極的に取り組む市民活動は各地ですそ野を広げている。ファイザー製薬ではヘルスケアの分野の市民活動を支援し、その社会的認知を高めることを目的に、2000年から助成プログラムをスタートさせた。過去の実績にとらわれず、活動のユニークさと将来性に評価の重点を置いているのが特徴。2001年度の助成対象となった各プロジェクト(左頁参照)を中心に、9回連続(今回は3回目)でレポートする。



毎週主に金曜日と第一日曜日、入院や施設に入所している野宿経験者を定期的に見舞い、健康状態や病院、施設での状況を確認(写真上)。「家族らしい交わりの時間を少しでももちたい」と始めた生活相談。毎週金曜日、一緒に食事したり、カウンセリングを行い、一人ひとりそれぞれの状況に応じた健康管理や生活サポートに取り組んでいる(写真右)



人を人として野宿生活者と共に 生きる喜びを分かち合うケア活動

木曜夜まわり会の「孝ヶ崎地域における「終わりになき」生活支援事業(大阪府)

「野宿生活者たちのことを知れば知るほど、このプロジェクトに関わっていきたくて思うようになりました」

大阪のJ-R環状線「新今宮」駅南側一帯にある孝ヶ崎地域(あいりん地区)で、野宿生活者の生活相談と支援活動を行っている「木曜夜まわりの会」。

公務員として働かたわら、6年前からボランティアで参加している高塚晃弘(32)さんだ。実は、高塚さんは貧困や病気で見捨てられた人たちの救済活動に一生を捧げたマザー・テレサに会ったことがある。その時の「日本は豊かな国なのに、なぜ路上生活者を放っておくのでしょうか」という彼女の言葉



入院や施設入所後のフォローや、居宅生活をしている人たちの継続的なケア活動を行うために必要な資料もしっかり管理されている。

に心を動かされて、「木曜夜まわりの会」の活動に参加したのだという。

会の前身は、路上で飢えや寒さをしのいでいる人たちがいるのを見かねて、自主的に集まった人たちが始めた「夜まわり」。本格的に組織されたのが14、5年前になるという。当時は、毎週木曜日の夜10時半ぐらいに集まって、野宿生活者を訪ね歩きながら、毛布やおにぎりなどを配布。からの調子が悪い人には診療所や病院で無料で診療が受けられる医療券の配布や入院、宿泊施設の確保などを進めていた。しかし、週1回の夜まわりだけでは、病院や施設に行っても、その先どうなったかを誰も見届けることができない。相談する相手も少なく、退院、退所をして行方が分からな



左から、生活相談を行っている高塚さん、青山さん、小川さん。家族的な関わり合いを大切にしているメンバーたちだ

現在、毎週金曜日に、野宿に至った経緯や健康状態を把握し、生活保護申請の手伝いや病院や施設に入っている人たちを定期的に見舞ったりと、家族的な関わり合いのなかでの生活相談・訪問ケア事業を行っている。

支援メンバーの青山美香(33)さんと小川裕子(29)さんは、口をそろえる。「この地域はもともと日雇い労働者が多く、高齢のため働けなくなると野宿生活を始めたという人がほとんどです。身寄りもなく、孤独のうちに亡くなる方も少なくありません。私たちは、路上で出会った人たちと一緒に生きる喜びを分かち合いたい」

自分たちでつくる「給食」から、 さまざまなことを学ぶフリースクール

神戸フリースクール不登校の子供たちの健康と体力づくりを考える(兵庫県)

輸入雑貨屋と見まがうような、カラフルな軒先。その2階の広間では、子供たちがそれぞれ好きなように過ごしている。スタッフと勉強をしている子、対照的にゲームに没頭している子。かと思えば、静かに本を読んでいる子もいる。

2001年度
助成対象プロジェクトの
団体名・活動内容・
主な活動地域

新規助成

1	札幌市ホームレス者の健康支援と実態調査 北海道のホームレス者の健康支援を行う医師・医学生会の会(札幌市)
2	障害児・者とその家族のための生活支援サービス促進事業 サポート・ハウスばお(埼玉県蓮田市)
3	暴力被害女性支援“自然派レストラン・喫茶Saya-Saya”事業 地域生活支援ネットワーク女性ネットSaya-Saya(東京都荒川区)
4	薬物依存症の青少年のためのデイケア事業 特定非営利活動法人セルフサポート研究所(東京都江東区)
5	障害児・者に対するダンスワークショップ 特定非営利活動法人ボーロニア協会(東京都江東区)
6	DV被害女性及び同伴子の緊急一時保護事業 FTCシェルター(東京都)
7	ひきこもりサポートプロジェクト 日本アダルトチルドレン協会(JACA)(東京都世田谷区)
8	山山介護支援事業 特定非営利活動法人自立支援センターふさの会(東京都台東区)
9	思春期の自立と精神保健を育むピアサポート事業 ティーンズポスト(東京都町田市)
10	不登校の子ども達のための六浦共同生活舎生活体験合宿 特定非営利活動法人コロンブスアカデミー(神奈川県横浜府)
11	横浜寿町「さなぎの家」 なんでもSOS班 特定非営利活動法人さなぎ達(神奈川県横浜府)
12	障害者の地域生活を支える民間レスパイト事業 コンビニの会(愛知県名古屋府)
13	釜ヶ崎地域における“終わりなき”生活支援事業 木曜夜まわりの会(大阪府大阪市)
14	拘置所に収監中の薬物依存者へのインタベンション・プログラム フリーダム(大阪府大阪市)
15	日本在住外国人のための医療支援事業 社団法人まちづくり国際交流センター(奈良県橿原府)
16	不登校の子どもたちの健康と体力づくりを考える 神戸フリースクール(兵庫県神戸府)
17	高機能広汎性発達障害の子ども達のサポート事業 岡山県高機能広汎性発達障害児者の親の会(岡山県岡山市)
18	10代の生と性を考える ドラマスクリーン三原 みはらおやこ劇場(広島県三原府)

継続助成

19	ショッピングセンターの機能を生かした福祉サービス 特定非営利活動法人自立支援センターアフィティ(青森県上北郡下田町)
20	チャイルドライン千葉「子ども電話」 特定非営利活動法人子ども劇場千葉センター(千葉県千葉府)
21	川崎ホームレス保健プロジェクト「冬を生きぬき、春を呼びこめ」 川崎水曜/土曜の会(神奈川県川崎府)
22	中等教育を補う「コミュニティ・スクール」の実現をめざして 特定非営利活動法人ベラビューマンサポート(静岡県三島府)
23	不登校児童・生徒の支援に係わるセミナー開催事業 特定非営利活動法人フレンジーコミュニティ(兵庫県西宮府)
24	精神障害者のための「つどい」事業の普及充実活動 障害者を持ちながらも自立と納得いく社会参加を目指すふれあいセンター(沖縄県那覇府)



仲間たちと一緒に楽しくご飯を食べることで、連帯感も深まる。この日のメニューは「ちらし寿司」と「玉ねぎの味噌汁」(写真上)食事の支度も子供たちが行う。家庭でレシピを仕入れて腕をふるう子ども(写真中)隣の空き地でバスケットボール。体を動かすことの楽しさを改めて知る(写真下)

この自由な雰囲気、子供たちも当初は戸惑うというが、主宰者の田辺克之さんは「自由でいいや」と微笑む。もともと明石市で私塾を開いていたが、生徒の一人が不登校になったことを機に、90年にフリースクールを開設阪神淡路大震災で建物が倒壊、存続が危ぶまれたが多くの人の支えで97年に現在の場所に移転、再開した。商店街近くの下町ならではの人情味あふれる環境で、15人ほどの中・高校生がそれぞれのびのびと過ごす。そんな開放的な雰囲気がかえって彼らの自主性を促し、学習にも意欲的になるといふ。

「たとえば、パソコンをやるうとしてマニュアルを読むのだけど、横文字が多くてよくわからん。ならば英語を勉強してみようか、という具合に、学校を嫌った子供たちが自分の興味に従って学習に取り組むようになるんです」自分なりの学び方を実践していく中で、自分で考え、意見を述べて行動するようになる——つまり、生きる力を、子供たちは自然と身につけていく。昨年からは始めた週2回の「給食」も彼らの成長を大きく促すこととなった。あまり豊かではない家庭ゆえに昼食を抜く子供や、コンビニ食中心の子が増えたことが実施のきっかけ。だが、1食につき一人あたり2〜300円のコストで栄養を考えた食事を出すのはなかなか大変。しかし、献立プランから食材の仕入れ、調理まで任せることで彼らは自ずと生活力を身につけて、うまくやりくりしている。

「親から出された食事をただ食べていた子らが、あそここの店はただ安いだけでなく、あそここの店は大根安いでなんていうようになった(笑)。地域



「失敗から学ぶことは数多いのに、子どもの失敗が奪っている」と、田辺克之さんの自主性の尊重を信条とする

【ファイザープログラム】
心とからだのヘルスケアに関する市民活動支援
2002年度 募集要項

1. 募集期間: 2002年7月1日~8月13日
2. 助成金: 1件あたり300万円を上限とし、本年度は15件程度の助成を予定しています
3. 助成の期間: 2003年1月1日~12月31日(1年間)とします
4. 対象となる分野: 特に次のようなプロジェクトを重視します。
 - 1) 成長過程にある人たちの心身のすこやかな発達を支援する活動
→おもに10代が抱える問題を克服し生きる喜びをもつことを助けるもの
 - 2) 社会的な受け皿がないために保健・医療を受けられない人たちの心身のケアを支援する活動
→外国人、路上生活者、PTSD(心的外傷後ストレス障害)などの人々を対象とするもの
 - 3) 障害をもつ人や療養にある人たちの充実した生き方を支援する活動
→身体障害、知的障害、精神障害などの人々、難病、長期療養にある人たちの社会生活を豊かにするもの
5. 問い合わせ先: ファイザー・製薬株式会社 企業文化部 03-3344-7524
応募要項はホームページからダウンロードできます <http://www.pfizer.co.jp>

の商店街の人たちとふれあう機会もより増えたことで人と接することにも慣れて、少しずつ遅くなってますよ」栄養面とともに、家の中にいることが多くなりがち不登校児たちの体力面をフォローしているのも特徴だ。隣の空き地にバスケットボールのリングを設置したほか、市の公共施設を借りてさまざまなスポーツを楽しんでいる。仲間と「同じ釜の飯」を食べ、太陽の下で思いっきり体を動かす。学校では輝くことがなかった彼らの瞳には、紛れもなく力が宿っている。